

第189回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成25年6月6日(木) 11:00~12:30

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 7人
出席委員数 4人

(1) 出席委員の氏名 早川 富美子(委員長)
片山 貴之(副委員長)
青木 敬信
古磯 勝子

(2) 欠席委員の氏名 片岡 真理
島田 恭子
長 茂男

(3) 放送事業者側出席者 大森 敏秋(代表取締役社長)
佐藤 望(放送部長)
古寺 雄史(放送部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

6月4日に放送した「矢板時間」について、試聴と意見交換を行った。

事業者

これは、今年4月から放送をスタートした、毎週火曜日の午後1時30分からの生放送番組です。ふるさと再生雇用特別基金事業を利用した矢板市提供の地元情報紹介番組で、市の歴史や観光スポット、人物紹介など、矢板市を広く県民にPRする構成となっています。

当番組の制作にあたっては、リポーターや制作スタッフなど3名を、番組の雇用先の「栃木プロジェクトプロ」が採用し、また、パーソナリティにはフリーアナウンサーの松浦千佳を起用しています。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

松浦さんは、元気いっぱいな話し方で、番組が明るく楽しいイメージになるよう、頑張っていた。しかし、全体的に早口で、さらに高過ぎるテンションでの一本調子な話ぶりは、聴いていて疲れる。

委員：

松浦さんは、「～しちゃった」など軽い口調を多用していることも気になった。進行役として、番組への思いばかりが先走っていて、トークの技術が追いついていないように感じられた。

委員：

ハロー矢板ティーチャーのコーナーについては、話を伺った山縣さんの呼び名が統一していなかったのが気になった。ただ、松浦さんの話すテンポはゆったりで、聞きやすかった。内容的には、山縣有朋記念館でのご子息ならではの話は貴重で、とても興味深かった。こんな施設があることを今まで知らなかったが、放送をきっかけに現地に行ってみたいと思えた。

委員：

レポートコーナーでは、田植え祭での水田アートを取り上げていたが、その制作にあたっての苦労話などをもっと突っ込んで聞いてほしかった。どういう切り口で何を伝えるのか、しっかりと事前に熟考してレポートしてほしい。ただ、リポーターの黒後さんは、発音が聞きづらいところがあったものの、その明るく元気な体当たりのリポートには、好感が持てた。

委員：

番組オープニングやエンディングに入っていたナレーションは、テンションの高いDJの声とのギャップが大きく違和感があった。

委員：

番組の内容的に、不満に思うところは特になかったが、喋り手の二人のレベルアップを望みたい。

委員：

現在放送中の自治体広報番組は14になったが、ここまで増えた訳は？

事業者：

先行して放送をしていた近隣の市・町からの評判を聞いた各自治体から、同じくラジオ放送を通して、地域のブランド力を高めたいというニーズがあった。

委員：

やはり、14もあると、リスナーにとっては、その違いがよく分からなくなるのでは？いくつかの番組を聞いたが、DJもリポーターもやや凡庸にやっているようにも感じられる。

委員：

制作者は、数ある自治体広報番組の中で、自らが担当する番組を、より目立たせる取り組みが、必要であろう。担当する自治体にどんな魅力があるのか、もっと制作者の好奇心を番組の中でも伝えてほしい。自治体広報番組同士で、その内容の充実度を競うスタンスで制作して欲しい。

委員：

自治体広報番組が使っているふるさと雇用の本来の目的を再認識し、採用者の育成プログラムを作成するなど、局としても、番組・人材の両面で、質を高める努力を怠ってはならない。また、地方の放送局としての使命や、ローカル番組全体としての今後のあり方を検討すべきだ。

委員：

以前は、主にFM放送から音楽の情報を得ていた。音楽の情報をより充実させた番組編成を望みたい。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について
次回の開催を7月4日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 6月30日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし